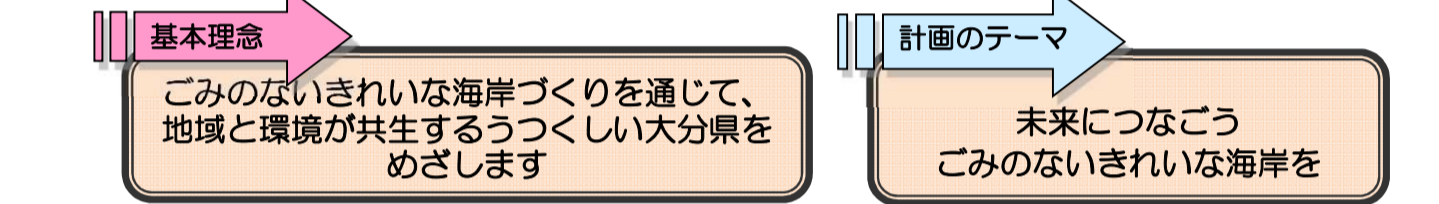




### 第3次大分県きれいな海岸づくり推進計画 (令和3年3月策定)

- 多くの県民に親しまれている大分県の海岸ですが、変化に富んだ地形や複雑な潮流等により、**海岸ごみ(漂着物)が発生しやすい特徴**があります。
- 海岸ごみは大きくは人工ごみと自然ごみに分けられますが、特に**人工ごみ**は自然のサイクルの中で分解されにくいことから、**生き物や環境に重大な影響を与える**こともあります。
- 海岸ごみ問題を解決するためには、海岸清掃などの回収・処理に加えて、**ごみを出さない、減らす、捨てない**等の人々の**理解や行動**が大切です。
- 本県の海岸ごみの現状について理解を深めるとともに、**行政をはじめ広範囲の県民、関係団体が連携して総合的な取り組みを行う**ために「大分県きれいな海岸づくり推進計画」を策定しています。



### おおいたきれいな海岸づくりマップとは…

- この「おおいたきれいな海岸づくりマップ」では、**行政をはじめ、県民、民間団体等**の皆さまに**海岸ごみの現状について広く理解**していただくため、現地調査に基づく**県の海岸ごみや沿岸に関する様々な情報**を掲載しています。

このマップについてのお問い合わせ先 大分県循環社会推進課 電話 097-506-3141

### 海域の概要

大分県の海岸は、大きく次の4つに分けられます。

#### 周防灘沿岸：中津市、宇佐市、豊後高田市、国東市（黒津崎以北）

大分県北部に位置する周防灘沿岸は、浅い海岸で、潮の干満の差が大きいため、中津干潟や和間海岸などの広大な干潟が発達しています。干潟には、生きた化石といわれるカブトガニやナメクジウオ、アオキスなどの希少な動植物が多数生息・生育しており、日本の重要湿地500やラムサール条約湿地潜在候補地に指定されています。また、干潟域や沿岸域では採貝漁業やノリ養殖業、漁船漁業が行われています。

#### 伊予灘沿岸：国東市（黒津崎以南）、杵築市（臼石鼻以北）

大分県北東部に位置する伊予灘沿岸は、遺浅の海岸が広がります。国東半島では海岸沿いに松が植えられ、白砂青松の海岸は景観スポット、海水浴場として人気を集めています。また国東半島の海岸地形は、半島中央に位置する帽子山のほるか昔の火山活動で形成されており、北側にはリアス式海岸が形成されています。また、潮流のおだやかな伊予灘は魚種も豊富で、刺網・釣りなどの漁業が盛んです。

#### 別府湾沿岸：杵築市（臼石鼻以南）、日出町、別府市、大分市（関崎以北）

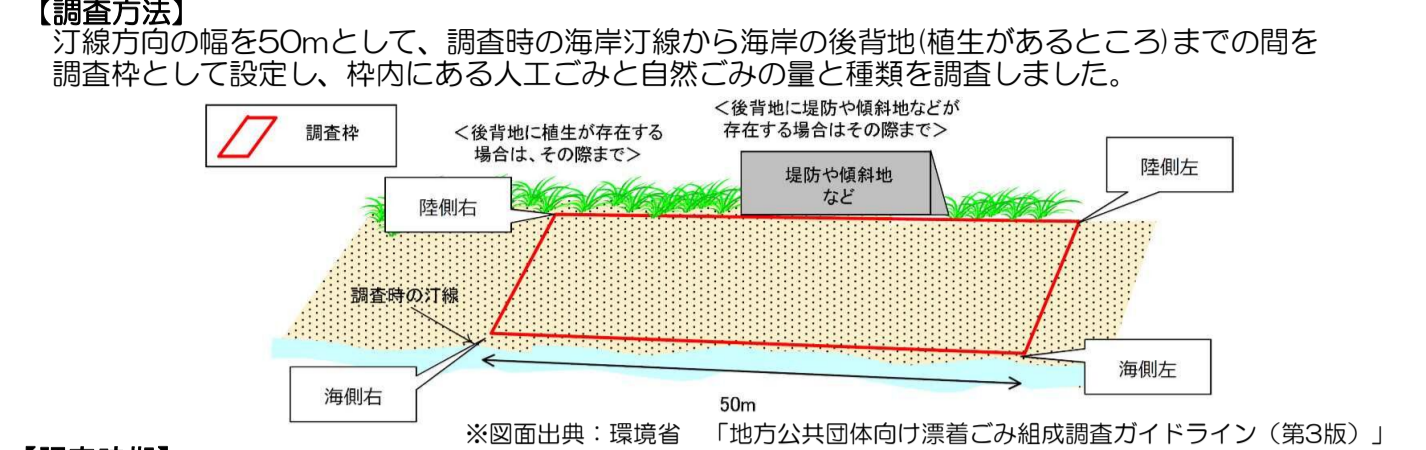
大分県中部に位置する別府湾沿岸は、なだらかな海岸線が特徴的です。佐吉浜（杵築市）、糸ヶ浜（日出町）、関の江（別府市）、神崎、大志生木（大分市）などの海水浴場が点在しています。また、守江湾（杵築市）の発達した干潟にはカブトガニやアオキスなどの希少な動植物が生息・生育しており、日本の重要湿地500に指定されています。大分市沿岸部では、港湾整備や埋立てにより自然海岸はほとんど消失していますが、ウォーターフロント開発として、「かんたん港園」が整備され、海岸の利用も多くなります。

#### 豊後水道沿岸：大分市（関崎以南）、臼杵市、津久見市、佐伯市

大分県南部にある豊後水道沿岸は、長目半島、四浦半島、鶴見半島、入津半島と臼杵湾、津久見湾、佐伯湾、米水津湾などの半島と湾により形成されたリアス式海岸が特徴です。波の浸食によって形成された海食崖、海食洞門など特異な海岸風景を見せています。また、魚の生息に適した岩礁や、瀬戸内海からの潮流と南からの黒潮が合わさる日本有数の漁場である豊後水道では、資源漁業や沿岸漁業が行われています。

### 大分県における海岸漂着物実態調査

- 大分県の海岸の状況を把握するため、以下のとおり現地調査を行いました。



【調査時期】 令和6年10月16~20日、12月13~17日

【調査対象海岸】

沿岸名	市町村名	No.	海岸名
周防灘沿岸	宇佐市	①	和間海岸
	豊後高田市	②	松津漁港海岸
伊予灘沿岸	国東市	③	国東海岸（小浜地区）
別府湾沿岸	杵築市	④	守江港海岸（納屋地区）
	大分市	⑤	志生木漁港海岸
豊後水道沿岸	佐伯市	⑥	下梶寄海水浴場
※臼杵灘沿岸を一部含む		⑦	元猿漁港海岸

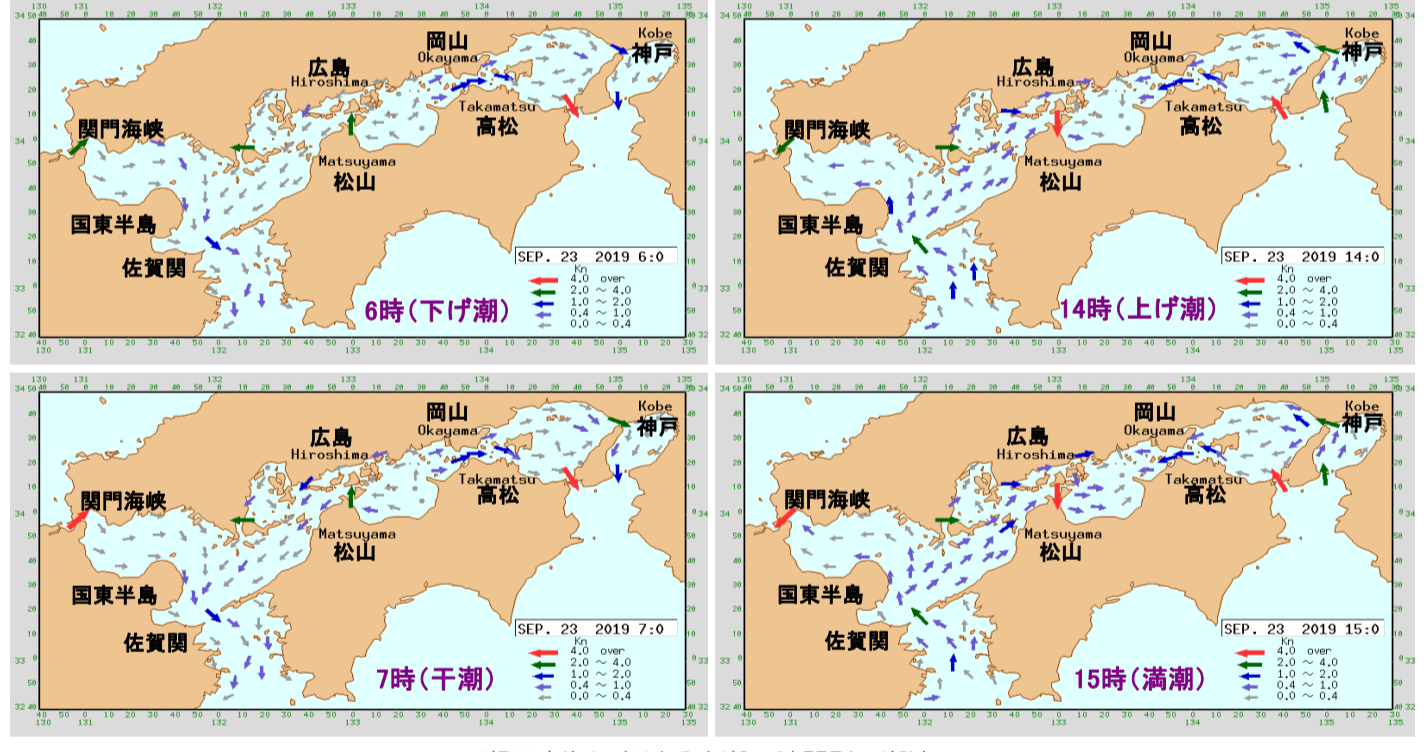
※調査地点は、これまでの調査結果を踏まえて開催した検討委員会での意見を踏まえて設定しています。調査地点の詳細は裏面参照。

### 海岸の生き物



### 潮流の概要

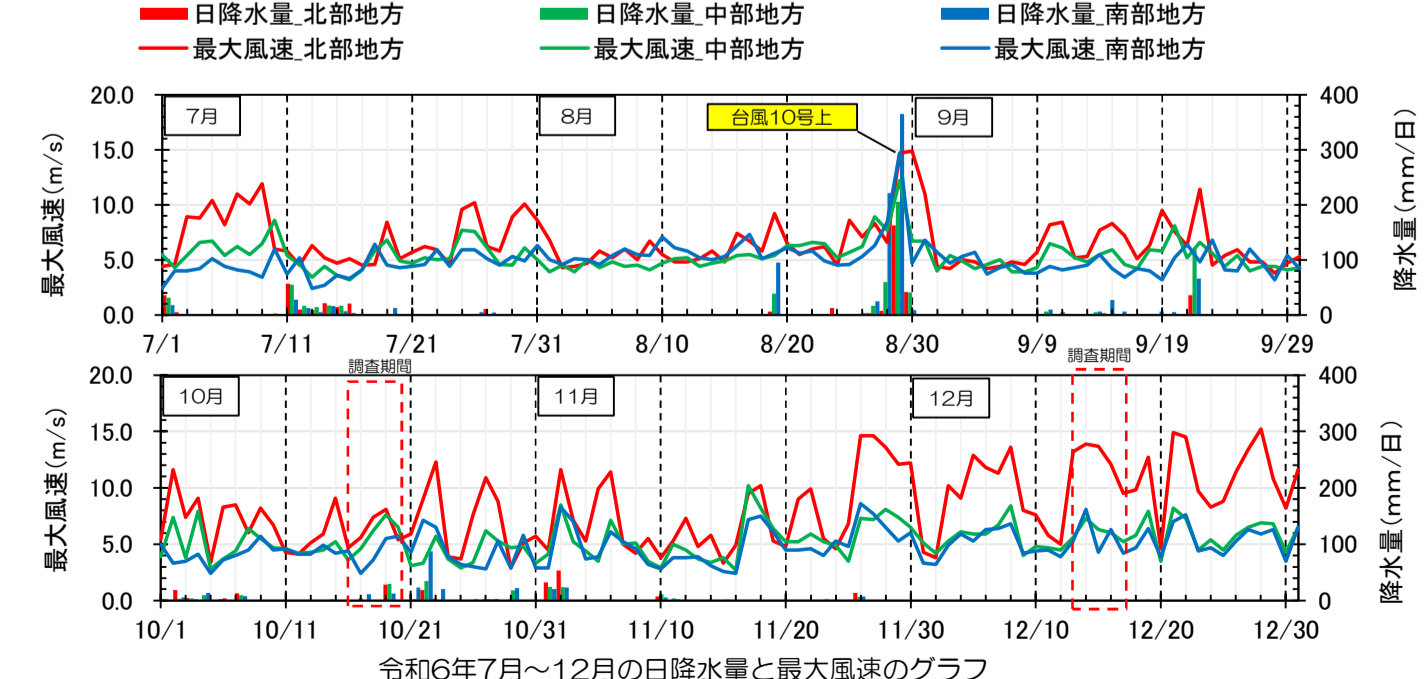
- 大分県沿岸の漂着物は、瀬戸内海からの潮流や黒潮により運ばれてくると考えられます。



瀬戸内海における大潮の時間別の潮流 ※海上保安庁 海洋情報部ホームページ 潮流推算を基に作成。秋分頃(2019.9.23)の「佐伯」における潮汐を基に上げ潮、下げ潮としました。 [https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TIDE/curr\\_pred/index.htm](https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TIDE/curr_pred/index.htm)

### 令和6年の気象状況(7~12月)

- 調査を行った月の日降水量と風速は以下のとおりです。
- 令和6年は、8月の台風10号の上陸で降水量が多く確認されましたが、その後の降水量はあまり多くない状況でした。



※気象庁HPの気象データを基に作成。(北部地方は豊後高田気象台、中部地方は大分気象台、南部地方は佐伯気象台の気象データを使用しました。)

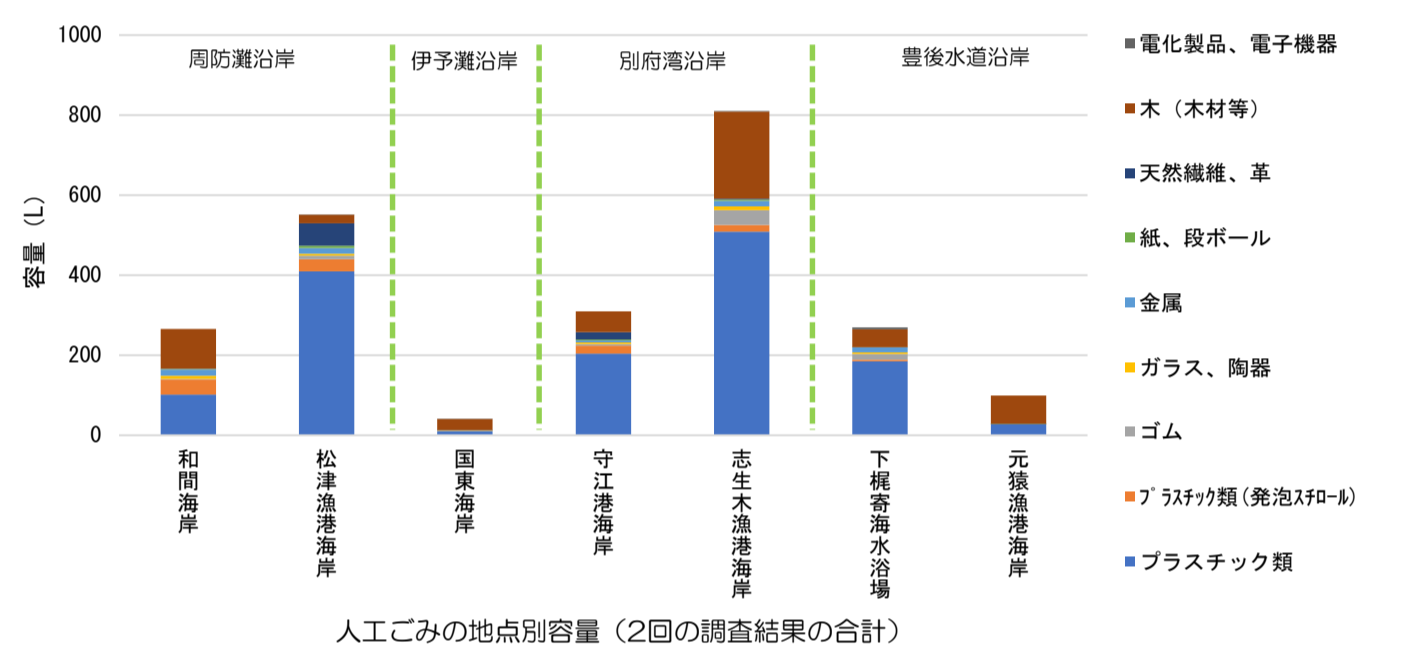
### 人工ごみの種類

海岸に漂着する人工ごみは、以下の(1)~(9)のように区別されます。



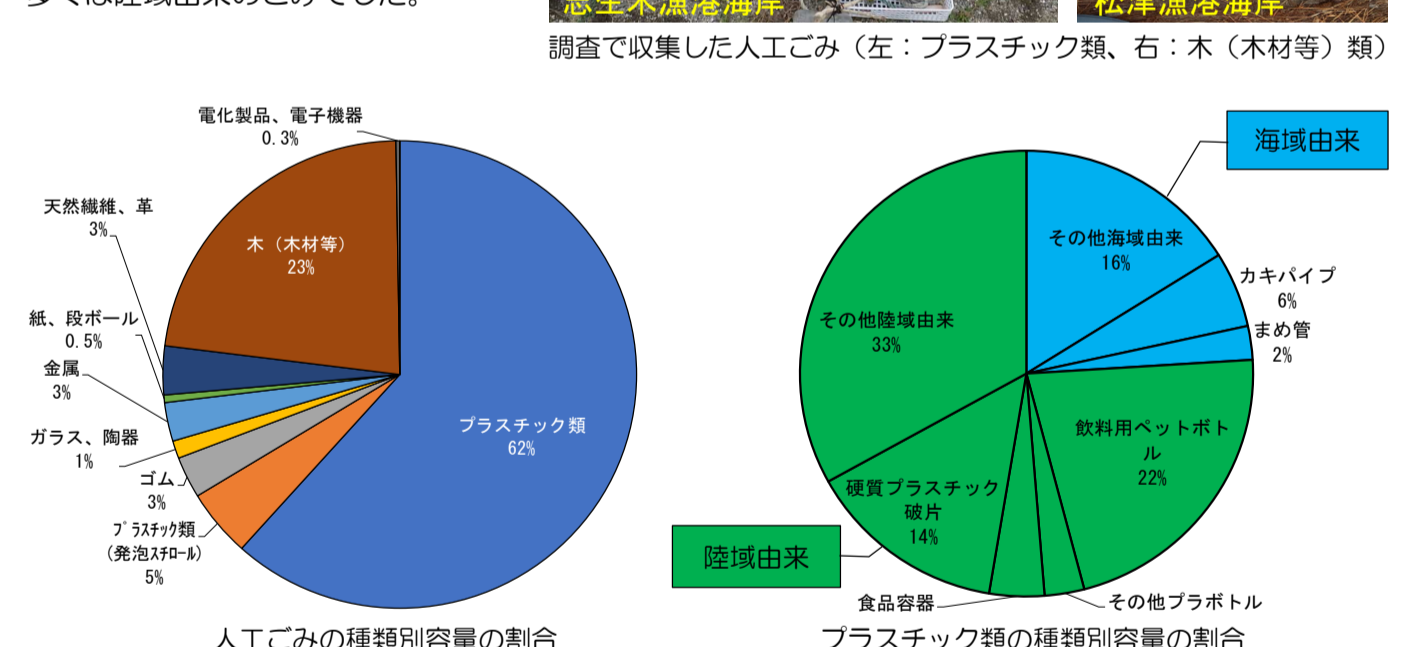
### 人工ごみの地点ごとの状況

- 漂着する人工ごみの量は、潮流や地形など様々な要素が影響しています。
- 令和6年度の調査では、周防灘沿岸と別府湾沿岸で人工ごみが多い箇所が確認されました。
- 地域の皆さんによる定期的に清掃活動が実施されている国東海岸や元猿漁港海岸では、ごみが少ない傾向がみられます。



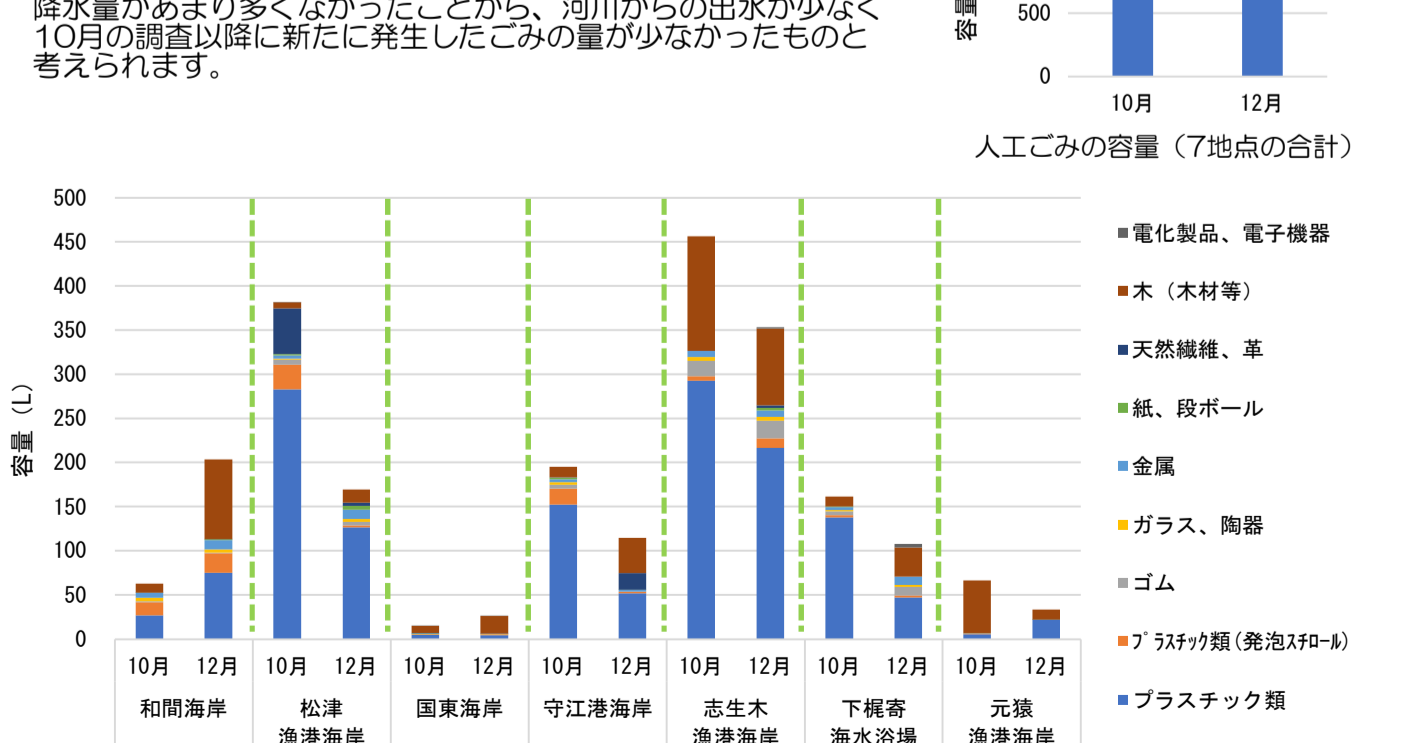
### 人工ごみの内訳

- 令和6年度の調査では、プラスチック類が最も多く、人工ごみの容量のうち62%を占めています。次いで、木(木材等)類が23%と続きます。
- プラスチック類の内訳では、飲料用のペットボトルの割合が高く、多くは陸域由来のごみでした。



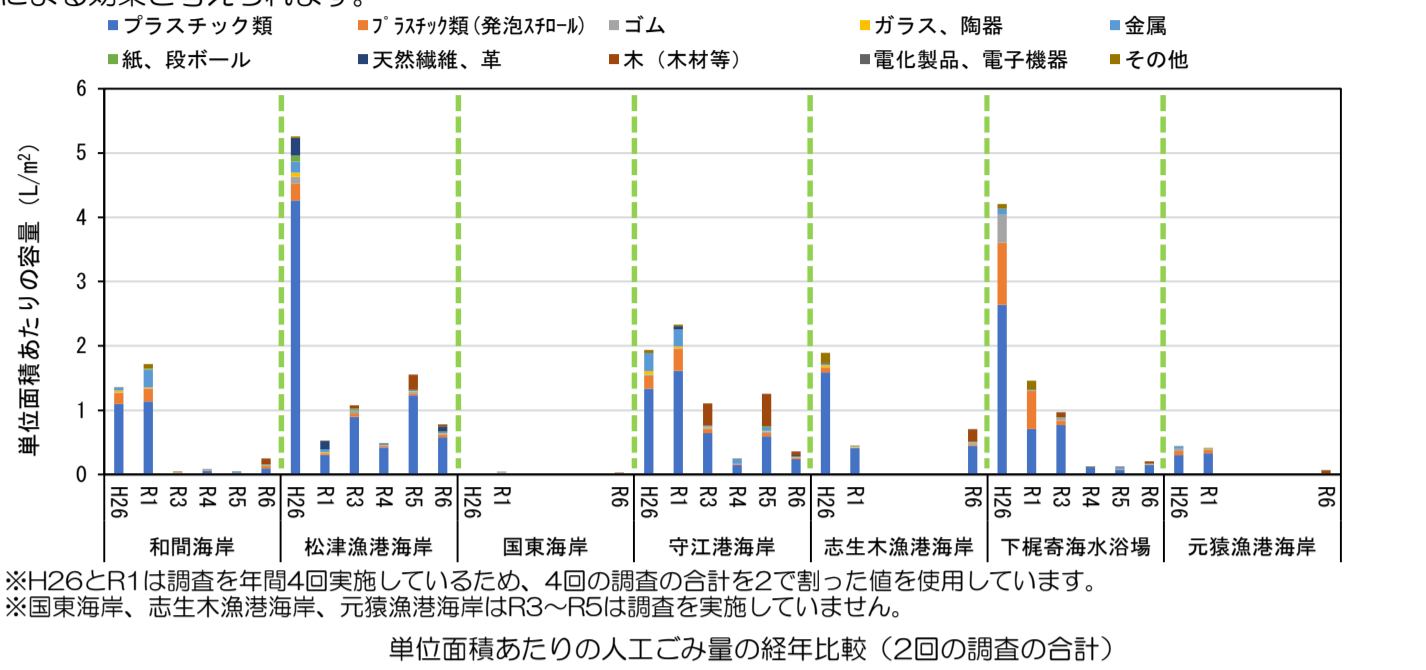
### 人工ごみの季節変動

- 人工ごみの量は、和間海岸と国東海岸を除いた5地点で、10月が12月より多くみられました。
- この要因として、令和6年は8/30に最接近した台風10号以降、降水量があまり多くなかったことから、河川からの出水が少なく10月の調査以降に新たに発生したごみの量が少なかったものと考えられます。



### 人工ごみの経年比較

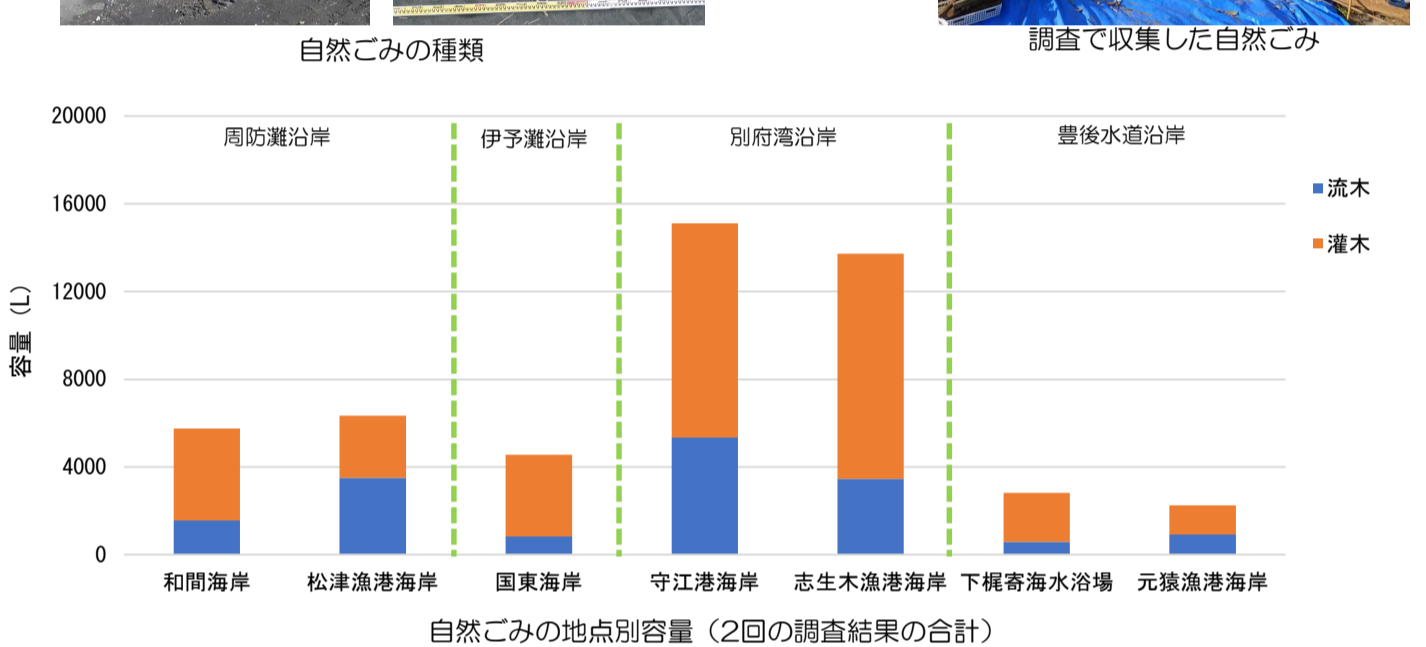
- 人工ごみの量(単位面積当たりの容量)は平成26年度以降、全体的に減少傾向がみられました。
- 平成26年との比較では、松津漁港海岸と下梶寄海水浴場で、特に人工ごみの減少がみられました。
- 特にプラスチック類の減少が顕著であり、地域の皆様の清掃活動や「ごみを出さない、減らす、捨てない等」の自らの行動の積み重ねによる効果と考えられます。



※H26とR1は調査を年間4回実施しているため、4回の調査の合計を2で割った値を使用しています。 ※国東海岸、志生木漁港海岸、元猿漁港海岸はR3~R5は調査を実施していません。

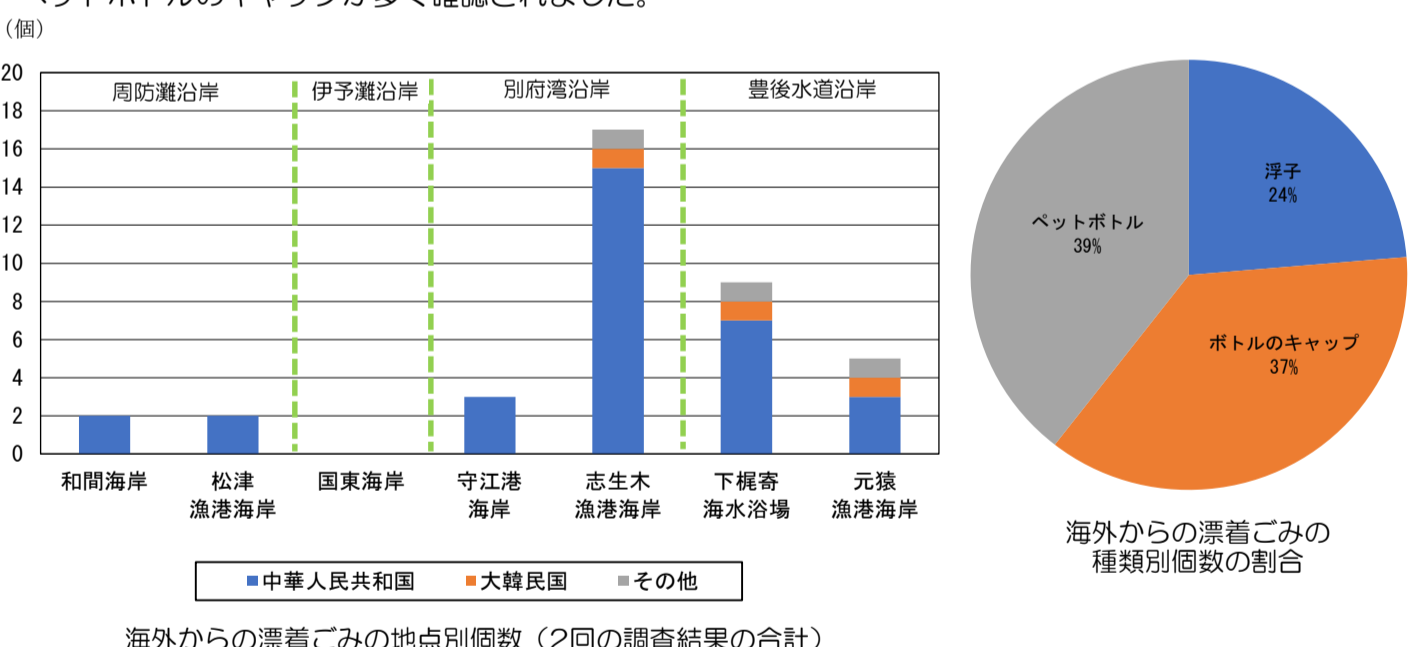
### 自然ごみの種類と状況

- 人工ごみ以外でも、流木や灌木などが漂着していました。
- 大型の流木等も漂着しており、台風10号の影響も考えられます。



### 海外からの漂着ごみ

- 海外からの漂着ごみの確認数(38個)は、人工ごみ全体の約0.4%でした。
- 海外からの漂着ごみは、県内の南側の調査地点で多く確認されました。
- 国別では中国(台湾を含む)から漂着したと推定されるごみが多く確認されました。
- 海外からのごみの多くはプラスチック類であり、なかでもペットボトルやペットボトルのキャップが多く確認されました。



### おわりに

- 今年度行った実態調査により、県内各地の海岸は平成26年度よりもごみが少なくなっていることがわかりました
- このことは、地域の皆さんの地道な活動が、きれいな海岸づくりにつながっていることを表しています
- 皆さんの誇りである「きれいでも自然豊かな大分の海岸」を、後世につなげていきましょう



皆さんの清掃活動が、きれいな海岸をつくってくれています 左：国東海岸 右：下梶寄海水浴場